

幼・保等、小、中連携の推進

1 山都町清和地区の「保、小、中連携」の取組

山都町清和地区では、平成25・26年度「幼・保等、小、中連携実践研究事業」の指定を受けられ、研究テーマを「いのち輝く清和っ子の育成を目指して」、サブテーマを「育ちや学びをつなぐ保、小、中連携」と設定し、大川保育園、小峰へき地保育所、清和小学校、清和中学校及び山都町教育委員会が連携して取り組まれた概要を紹介します。

(1) 研究テーマ

**「いのち輝く清和っ子」の育成を目指して
～育ちや学びをつなぐ保、小、中連携～**

(2) 研究の視点

視点1

地域の実態に応じた連携の工夫

子どもの実態と課題をもとに、[知]・[徳]・[体]の面における「目指す子ども像」を設定し、保育所、小学校、中学校で目標連携を図り、連携カリキュラム等を活用した行動連携による実践を推進する。

視点2

円滑な接続の推進

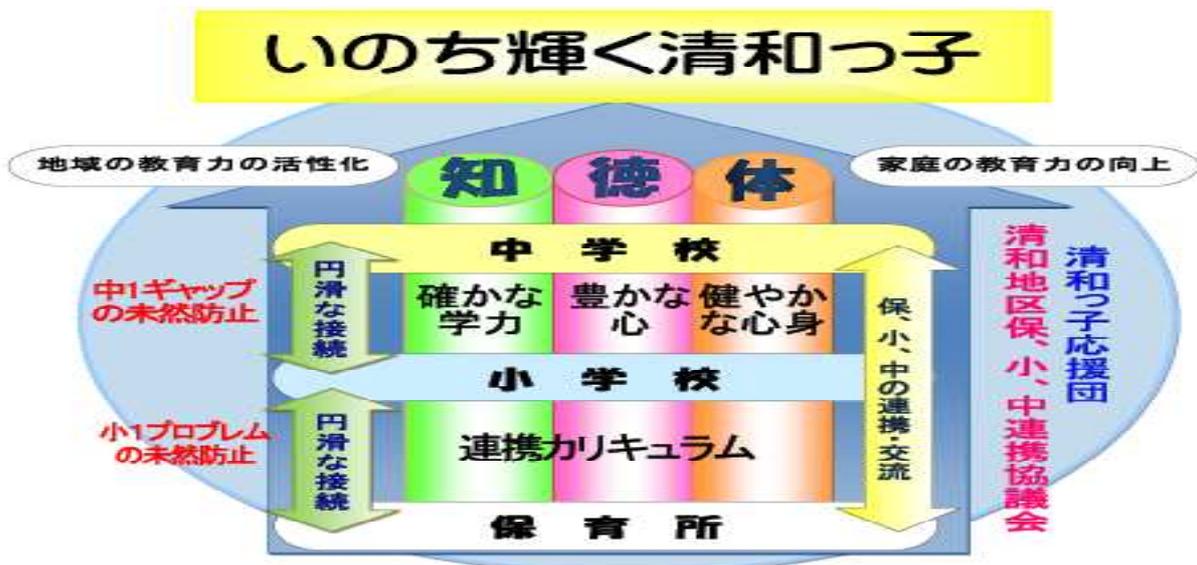
保育所から小学校への接続に関するカリキュラム、小学校から中学校への接続に関するプログラムを編成して活用するとともに、交流活動を工夫することで学校生活への円滑な接続と適応を図る。

視点3

家庭・地域との連携の充実

子どもの育ちを見守り支えるための保、小、中連携協議会等を組織し、「目指す子ども像」の共有化と実現を目指し、家庭・地域と一体となった取組の推進を図り、家庭教育力の向上、地域教育力の活性化を目指す。

(3) 研究構想図



(4) 研究の実際（視点2のみ）

保育所と小学校の接続

アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの編成と活用

保育所においては、年長児が小学校の生活や学習に滑らかに適応できるよう、入学までの1年間を3か月毎に区切り、指導目標や活動計画を示したアプロ - チカリキュラムを編成し、それに基づき実践した。その一例として、9月には小学生に親しみをもち、小学校生活の様子や集団のきまりなどについて知るために、年長児が小学校運動会の練習を見学した。



運動会練習を見学する年長児

スタートカリキュラムには、就学前教育の成果を生かすために、保育とのつながりを意識し、モジュール学習や合科的な授業などを組み込んで実践した。具体的には、一日の流れを説明する時間を朝自習や1時間目に位置付けたり、保育所で行う手遊び歌や読み聞かせを行ったりした。また、4時間目には、継続して給食準備の時間を設定し、全員が繰り返しながら準備のやり方を覚えられるようにした。

さらに、学びをつなぐことを意識し、生活科で雨の日の遊びに作った「サイコロゲーム」を算数科の単元「いくつといくつ」の導入に取り入れ、興味や集中力を高めるような合科的・関連的な授業を行った。児童は二人組で遊ぶ活動をとおして、数の分解・合成を理解することができた。チャイムが鳴ると「もう終わり？まだしたかった。」というつぶやきがあり、集中して取り組んだ様子うかがえた。



算数の導入でサイコロゲームをする1年生

交流活動の工夫

ア 生活科「あきとなかよし」での交流

秋を見つけよう(交流)	めざせ秋の遊び名人	秋の遊び大会をしよう(交流)
<p>年長児と1年生が神社で秋を探し、見つけた秋を発表したり五感を使って遊んだりして秋を楽しむ活動を行った。</p>	<p>集めた草木や木の実を使って、どんな遊びができるか教わったり考えたりしながら、遊びを工夫して作った。</p>	<p>年長児を招待して、自分たちで考えた遊びや飾りものを使って楽しませる「秋のゲーム大会」を開催した。</p>
<p>この葉っぱ、ちくちくするよ。さわってみて。</p> 	<p>どんぐりで塔ができた</p> 	<p>がんばれ!</p> 

ゲーム大会当日、1年生は年長児にゲームのやり方やルールを上手に伝えることができた。年長児は、「楽しかった。あの時の葉っぱが、お魚さんになっていた。」と喜んで釣り上げた魚を持ち帰っていた。年長児から「学校って楽しいな。」というつぶやきが聞こえてきた。

イ 小学校プールでの水遊び交流

昨年度から、小学校のプールで年長児と1年生の水遊び交流を実施している。2年目の今年は、昨年度の反省を踏まえた交流を行い、より充実したものとなった。

平成 25 年 9 月実施



小学校のプールは広くてきもちいい!

- 「小学校のプールは深くて怖い」という印象をもっていたが、小プールに安心し、抵抗なく楽しむことができた。お家の人に様子や出来事を話す年長児が多く、交流のよさを感じてもらうことができた。つい半年前まで、保育所で一緒に活動していた1年生だが、年長児になかなか声かけられず、積極的な関わりは少なかった。

平成 26 年 7 月実施

昨年度の反省を生かし、1学期にも交流活動を計画的に設定した。生活科で、夏の遊び(シャボン玉遊び)を年長児に教える活動を行った。交流を重ねることで親しみが増し、交流後「またね。」と互いに笑顔で別れる姿が見られた。1年生は、昨年自分たちがしてもらったことを思い出し、「今年は、ぼくたちの番だよ。」と意識が高まっていた。年長児は、小学校のプールでの水遊びを年中・年少児に教えたり、顔をつけられなかった子が、頑張っている様子など、意欲面で成果が大きかった。1年生と年長児でペアを組んで活動したが、1年生は自分だけの活動に夢中になる場面が見られた。

は成果、 は課題

大きいシャボン玉ができるよ!



宝のボールたくさんとるぞ!

ウ 入学後の交流活動

年長児が1年生になった後も、2年生との合同授業を行った。2年生が1年生の手を引き、学校探検をしたり、学校周辺へ春探しに出かけたりした。また、地域の方の協力で、一緒に釜炒り茶づくりの体験も行った。そのことにより、1年生は安心して学ぶことができ、2年生は上級生としての自覚や態度が芽生えた。

踊っているみたい。ピンクでかわいいね。



これが「オドリコソウ」だよ。

1・2年生の春探しの様子

アンケートの実施と結果の活用

小学校入学を控えた年長児やその保護者がどこに不安をもち、その原因が何であるのかを知るためにアンケートと実態調査を行った。その結果から、年長児の3分の1以上が9時半以降に就寝していることが分かった。そこで、保育所での「早寝早起き」の呼びかけや、保育所、小学校、中学校合同で「キッズウィーク」に取り組んだ。3月から就寝と起床時刻を徐々に早め、4月には無理なく寝起きができるよう取り組んだ家庭もあり、就寝時刻について改善が見られた。(図4参照)

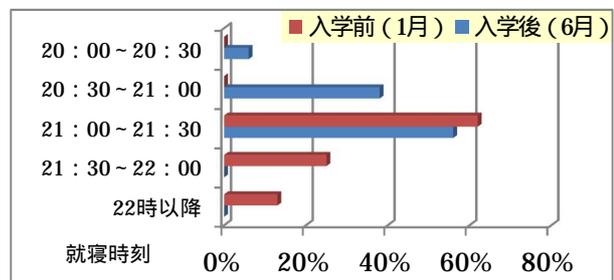


図4 入学前・入学後の就寝時刻の割合

また、アンケートの結果から見えた保護者の不安に対応できるよう、体験入学における保護者への説明内容を工夫した。さらに、入学前には、放課後に小学校職員2名で新入児の家庭を訪問し、健康面での配慮事項や登下校の確認を行うとともに、保護者の不安や期待などの思いを聞く機会をもった。これらの取組により、新入児と保護者の入学に対する不安を軽減することができた。

小学校と中学校の接続

アプローチプログラム、スタートプログラムの編成と活用

小学6年生が、中学校生活や他学年との人間関係等に抱く不安を取り除くためには、年間をとおした計画的な取組が必要だと考え、アプローチプログラムを編成した。このプログラムの中の清和文楽交流では、中学1年生が小学6年生に、清和文楽の演技に関する助言とともに自分の経験談を伝える場を設定した。小学6年生は、先輩たちが感じた演技への緊張感や不安感を知るとともに、励ましの言葉をかけてもらい、安心感や中学生への憧れを抱き、次年度の自分たちの役割について自覚していく姿が見られた。

このプログラムの実施をとおして、小学6年生と中学1年生及び中学校職員との交流が深まり、小学6年生に安心感を与えることや中学生との人間関係をつなぐことができている。

(接続 適応 支援)

月	学校行事等	乗り入れ指導(教科等)	交流授業(総合的な学習の時間)・活動	授業参観・その他
4	・入学式			
5	・修学旅行 中学校体育大会への参加	算数、外国語、音楽、体育 ・児童理解 ・学習内容、方法等の理解	清和文楽交流 ・練習開始にあたって、先輩(中1)に学ぶ。	中学校授業参観 ・小学校職員が中学校の授業を参観する。 小・中連絡会(教員) ・前年度卒業生の中学校生活の様子について

小学6年生アプローチプログラム

中学校入学後は、生活に無理なく適応できるようにスタートプログラムを編成した。このプログラムは、2年・3年への進級に伴う接続や適応を視野に入れた年間プログラムの内容とも関連づけた。1年部では、このスタートプログラムを入学後の一定期間に実施し、一人一人の学校生活への適応状況を見守りながら支援を行った。活動に際しては、1年生が他学年や職員とのつながりを深めたり、異年齢集団においても所属感を感じたりできるよう、活動形態や内容の工夫に努めた。また、2年・3年では、学年への適応を図る取組とともに、1年生の円滑な適応を意識する働きかけを行った。具体例としては、4月に行った生徒会主催の歓迎行事が挙げられる。この中の部活動紹介では、各部が新入生との交流を図るために、練習内容を体験できる場を設定し、「認める、ほめる、励ます」声かけを行いながら歓迎する気持ちを表した。まだ、緊張感が残る1年生は、上級生と一緒に体を動かしたり、励ましや拍手を受けたりする中で、表情が和らぎ、安心感をもった様子が見られた。

第1週 <今週のねらい>
中学生としての自覚を持ち、中学生生活を始めることができる。

月	日	曜	行事等	校時	教科等	学習内容	留意事項	2年生	3年生
	7								
	8		始業式		職員会議		・生徒に関する情報と取組を共有する。		
	9	水	入学式	4	学級活動	入学式の事前指導	・新しい生活が始まることへの喜びを感ぜさせるとし、意欲を持たせる。 ・式に対する礼節を重んじる態度を育てる。	上級生としての自覚	同上級生としての自覚
				6	学級活動	学級開き ・生徒の抱負 ・担任の思い	・中学校への所属感を高める。 ・一人一人の思いを受け止め、今後の取組に生かす。	仲間との連帯感の高揚 個人の意識の高揚	
4	10	木	新入生歓迎行事	1・2	学級活動	学級の組織作り 給食指導	・集団の一員としての自覚を高める。 ・集団生活におけるルールを確認し、守ろうとする態度を育てる。	責任感の向上	責任感の高揚と自治的集団の育成
				5・6	生徒会活動	生徒会歓迎行事	・異年齢集団の活動により、中学校生活への意欲を高める。	サブリーダー意識	リーダーシップの発揮
	11	金	振替休業日						

中学1年生スタートプログラム

交流活動の工夫

ア 花は咲くプロジェクト（9ページ参照）

小学6年生と中学2年生が、合同でプランターに花の苗の植え付けを行った。この活動では、花の苗は中学生が育てたものに加え、矢部高等学校との連携を意識して、食農科学科の生徒が育てた苗を使用した。当日は、中学生がリーダーとなり、構成的グループエンカウンターを用いた雰囲気づくりを行いながら、活動の意義や苗の植え付けの手順等の説明を行った。グループでの作業時には、互いに笑顔で会話を楽しみながら作業をする姿が見られた。



苗の植え替えの様子

イ 体育大会・運動会での交流

5月に中学校で実施した体育大会では、「仲良く歩こう三人四脚」と題した合同競技を行った。児童1人と生徒2人でグループを作ったの競技であり、6年生に限らず、低学年の児童も参加することができ、中学生が小学生に優しい心配りをみせる姿があった。



小学校運動会での様子

また、9月の小学校の運動会では、子どものつながりを意図した合同競技を行った。年長児・児童・生徒の3人がグループで手をつないで入場し、生徒におんぶされた年長児は、後ろから児童に支えられながら競技を楽しんだ。みんな、にこやかな表情を見せていて、年長児からは「楽しかった。」というつぶやきが聞こえた。また、中学生は、徒競走や綱引きなどへ主体的に参加し、母校へ成長した姿を見せることができた。小学生は、先輩の参加を喜び、拍手したり、声援を送ったりして応援する様子が見られた。

アンケートの実施と結果の活用

中学校入学に際して、小学6年生とその保護者が抱える不安や戸惑いの実態を把握するため、12月にアンケートを実施した。その結果、児童の不安として多かったのは学習面のことで、内容としては特に英語の学習に関することであった。また、保護者の不安として多かったのは、学習面とともに上級生との人間関係であった。（図5）その不安を軽減するには、学習の内容や上級生の実際の姿を直接見てもらうことが必要だと考え、中学校の体験入学時に、1年生の英語の授業参観と、2年生・3年生の授業参観を実施した。更に、保護者同士が学校で同じ時間を過ごして話題を共有することで、今後のPTA活動の円滑化にもつながると考えた。そのため、授業参観を体験入学と同日に実施し、児童・生徒とその保護者を対象にした教育講演会も開催した。

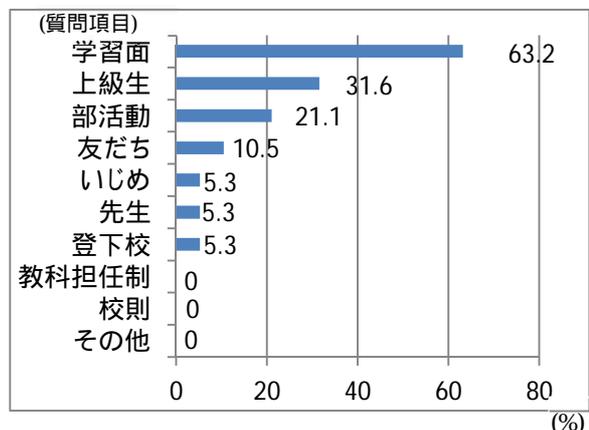


図5 入学前の保護者の不安(アンケートより)

「いのち輝く清和っ子」を育む保、小、中連携カリキュラム

項目	就学前		小学校		中学校		
	0～2歳	3・4歳	5歳	低学年	中学年	高学年	
発達段階	0～2歳	3・4歳	5歳	低学年	中学年	高学年	
めざす清和の子ども像	よく考え、進んで学ぶ清和っ子 ふるさとに誇りをもち、ともに生きる清和っ子 ねばり強く、たくましい清和っ子						
主な発達の特徴	自らが芽生えてくる。大人の援助を得て、生活習慣に繋がる簡単な身の回りのことを自分でしようとする。	依存から自立へと移行し、友だちとの関わりが増える。自分の思いを言葉で伝えるようになり、周りに関心が出てくる。	個性や社会性が芽生える。身辺自立がほぼ確立し、善悪を判断する力が芽生え、協力や達成感など心情面の経験が豊かになる。	自己中心性も残っているが、友だちのことや学校での決まりや学習の意味を理解し、集団性が身についてくる。	友だち関係が広がり、協力し合うことができるようになるなど社会性が身につく。	主体性が進んでくる。上級生としてリーダーシップがとれ協調性が増す一方、友だちや周りの評価を気にする面が出てくる。	心身の変化が大い時期である。生活の中で友人関係が重要な位置を占めるとともに、自己の将来や生き方についても考え始める。
	自ら学び力と学び意欲	○自分または友だちと一緒に遊びをみつけて、夢中になる。 ・ごっこ遊びや手先を使った遊びなど好きな遊びを楽しむ。 ○喃語や表情などで気持ちを表し、身近な大人を中心にやりとりを楽しむ。	○遊びや手先を使った遊びなど好きな遊びを楽しむ。 ○自分の気持ちを相手に伝えようとし、簡単な意思表示を言葉で伝える。	○家庭での学習に自分から取り組みたいこと、好きなこと、できることを増やす。普通な所が分り、克服しようとする。 家庭学習45分以上 ・自学に挑戦する。 ○自分の考えを分かりやすく伝えるときにも、相手の気持ちや考えを理解しようとする。	家庭学習55分以上 ・読書の幅を広げる。 ○自分の考えを整理して伝えるとともに、相手の立場に立って聞き、考えようとする。	家庭学習80～120分 ・社会状況に目を向ける。 ○場と相手に応じた適切な言い方で自分の考えを伝えるとともに、相手の考えを聞いて、自分の考えを広げようとする。	○目標に向かって主体的、画一的に学習を進める。 家庭学習80～120分 ・社会状況に目を向ける。
育みたい力と発達段階に応じた具体的な子ども姿	家族・ふるさとを愛する心	○家族や保育士等と近辺を散歩しながら、自然やふれあいを楽しむ。	○地域の施設や自然の場所を利用しながら、身近な人々との関わりを広げる。	○生活科等による体験学習を通して、地域の自然や文化、人のよさに気づく。 ○自他の考えを出し合い、自分も他の人も大切に、仲良く助け合いつながりながら生活することができ。	○ふるさとのよさ(豊かな自然、清和文楽、地域の人々の生き方など)にふれ、愛する心をもつ。 ○身の回りの差別や偏見をなくそうとしながら、友だちのよさを認め、互いに助け合い、励まし合いながら生活する。	○地域の一角として郷土に感謝し貢献しようとする。 ○人権問題に学びながら、自他の命、存在や生き方を大切にすることを高め、その態度変化を図ろうとする。	
	基本的な生活習慣	○お家の人に付き添ってもらいながら、着いた環境の中で十分に睡眠を取る。 ○形がある食品をかみつぶすことができるようになる。	○お家の人に付き添ってもらいながら、決まった時刻には、寝ようとする。 ○食事のリズムが定まると、規則正しくしようとする。	○望ましい生活リズムをつくり身につける。(午後9時までに就寝する) 保護者と一緒に → 自力で ○声をかけてもらいなから、決まった時刻に就寝・起床しようとする。 ○家族や友だちと楽しい食事をすることができ。	○学校生活と家庭生活で望ましい生活リズムを確立する。 ○帰宅後の生活リズムをお家の人と一緒に考え、実行しようとする。 (2時30分までに就寝) ○健康に過ごすことを意識して色々な食べ物を好き嫌いせず食べようとする。	○自分で生活リズムの計画を立て、体の調子に合わせて生活する。(2時までに就寝) ○食事の体に及ぼす影響や食品をバランスよく組み合わせる大切さを理解し、自分の食事が考えられる。 ○各種の運動を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに協調性を養う。	○自分の生活を見つめ、自分で就寝・起床時刻や生活行動を決定し、生活習慣を整えようとする。 ○食文化の歴史・郷土の産物、日常生活における食事と健康との関わりについて理解を深め、簡単な日常食の調理ができる。 ○豊かなスポーツライフの現実及び生涯にわたる健康で安全な生活を送るための実践力を養う。
運動習慣と体力	○体を動かす遊びを楽しむ。						
園・学校・地域・家庭	連携授業・保育の実施(参観、乗り入れ指導、交流活動、合同体験活動) 等						
活動例	保小中一斉の生活リズムチェック、保護者向け子育て講演会の実施、ノーテレビノーゲームデーの実施、あいさつ運動の実施 等 大川保育園 小峰へき地保育所 清和小学校 清和中学校						